

# CASBEE® 名古屋

## 評価結果

■使用評価マニュアル: CASBEE 建築(新築)2014年版、名古屋建築 | 使用評価ソフト: CASBEE\_Nagoya\_2014(v.1.22)  
 物環境配慮制度適用マニュアル2014

1-1 建物概要		1-2 外観	
建物名称	(仮称)ザ テラス 丸の内	階数	地上10F
建設地	名古屋市中区丸の内二丁目1513番	構造	RC造
用途地域	商業地域、防火地域(集団防火)	平均居住人員	144 人
気候区分	6地域	年間使用時間	8,760 時間/年
建物用途	物販店・集合住宅	評価の段階	基本設計段階評価
竣工年	2016年12月 予定	評価の実施日	2015年11月18日
敷地面積	331 m <sup>2</sup>	作成者	
建築面積	273 m <sup>2</sup>	確認日	2015年11月25日
延床面積	2,324 m <sup>2</sup>	確認者	

外観/パース等  
図を貼り付けるときは  
シートの保護を解除してください

### 2-1 建築物の環境効率(BEEランク&チャート)

**= BEE0.7** ★★★★★

☆:S:★★★★★ A:★★★★★ B+:★★★★ B:★★★ C

### 2-2 ライフサイクルCO<sub>2</sub>(温暖化影響チャート)

☆:100%超 ☆☆:100% ☆☆☆:80% ☆☆☆☆:60% ☆☆☆☆☆:30%

標準計算

①参照値	100%
②建築物の取組み	111%
③上記+②以外の	111%
④上記+	111%

このグラフは、LR3中の「地球温暖化への配慮」の内容を、一般的な建物(参照値)と比べたライフサイクルCO<sub>2</sub>排出量の目安で示したものです

### 2-3 大項目の評価(レーダーチャート)

### 2-4 中項目の評価(バーチャート)

**Q 環境品質** Qのスコア = 2.8

#### Q1 室内環境

Q1のスコア = 3.1

音環境	3.0
温熱環境	3.0
光・視環境	3.1
空気質環境	3.4

#### Q2 サービス性能

Q2のスコア = 3.0

機能性	3.1
耐用性	2.9
対応性	3.0

#### Q3 室外環境(敷地内)

Q3のスコア = 2.2

生物環境	1.0
まちなみ	3.0
地域性	2.5

**LR 環境負荷低減性** LRのスコア = 2.5

#### LR1 エネルギー

LR1のスコア = 2.7

建物外皮の	2.9
自然エネ	3.0
設備システ	2.5
効率的	3.0

#### LR2 資源・マテリアル

LR2のスコア = 2.6

水資源	3.0
非再生材料の	2.5
汚染物質	2.5

#### LR3 敷地外環境

LR3のスコア = 2.3

地球温暖化	2.1
地域環境	1.9
周辺環境	3.0

3 設計上の配慮事項	
<b>総合</b> 注) 設計における総合的なコンセプトを簡潔に記載してください。 共用スペースに吹き抜けを設置することにより広々とした空間づくりを演出、すごしやすい空間になるように心掛けた。 また住戸内設備をオール電化とし有害物質の排出を抑えた設計としている。	<b>その他</b> 注) 上記の6つのカテゴリー以外に、建設工事における廃棄物削減・リサイクル、歴史的建造物の保存など、建物自体の環境性能としてCASBEEで評価し難い環境配慮の取組みがあれば、ここに記載してください。
<b>Q1 室内環境</b> 注) 「Q1 室内環境」に対する配慮事項を簡潔に記載してください。 F☆☆☆の建築材料を採用。	<b>Q2 サービス性能</b> 注) 「Q2 サービス性能」に対する配慮事項を簡潔に記載してください。 昇降設備・階段部分に手すりを設置しバリアフリーに心がけている。
<b>LR1 エネルギー</b> 注) 「LR1 エネルギー」に対する配慮事項を簡潔に記載してください。 常時使用される共用部照明にLEDを採用し、環境負荷の低減に努めた。	<b>LR2 資源・マテリアル</b> 注) 「LR2 資源・マテリアル」に対する配慮事項を簡潔に記載してください。 有害物質を含まない材料を積極的に採用。
	<b>Q3 室外環境(敷地内)</b> 注) 「Q3 室外環境(敷地内)」に対する配慮事項を簡潔に記載してください。 分別可能な十分にスペースのあるゴミ置き場を設置。また敷地内に駐輪場を設けることにより、防犯に対して
	<b>LR3 敷地外環境</b> 注) 「LR3 敷地外環境」に対する配慮事項を簡潔に記載してください。 光害に配慮し、敷地外への影響の低減を図っている。

■CASBEE: Comprehensive Assessment System for Built Environment Efficiency (建築環境総合性能評価システム)  
 ■Q: Quality (建築物の環境品質)、L: Load (建築物の環境負荷)、LR: Load Reduction (建築物の環境負荷低減性)、BEE: Built Environment Efficiency (建築物の環境効率)  
 ■「ライフサイクルCO<sub>2</sub>」とは、建築物の部材生産・建設から運用、改修、解体廃棄に至る一生の間の二酸化炭素排出量を、建築物の寿命年数で除した年間二酸化炭素排出量のこと  
 ■評価対象のライフサイクルCO<sub>2</sub>排出量は、Q2、LR1、LR2中の建築物の寿命、省エネルギー、省資源などの項目の評価結果から自動的に算出される